

6 防災教育DX

災害安全⑤ DXを活用した防災教育

東京都教育委員会では、一人1台端末等の整備を都立高校全体に展開するとともに、データ活用の研究や統合型校務支援システム等の稼働を開始し、子供たちの学ぶ意欲に応え、子供たちの力を最大限伸ばすための体制を強化する「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」を推進しています。防災教育においても、デジタル教材やVR体験等の先端技術を取り入れたDXを活用した防災教育に取り組んでいます。

1 ねらい

時間や場所に限定されず、理解度や進度に応じた主体的・対話的な学びを実現する。
知識や想像と体験をリンクし、より現実的な深い学びを実現する。

2 指導例




	①事前学習 理解度に応じて事前に学ぶ。 (知識や想像を深める)	②体験 実際に体験する。 (実際に行動できる)	③事後学習 体験を振り返り、学びを深める。 (自分のものとする)
場所	学校や自宅	学校 防災体験施設や消防署	学校や自宅
方法	デジタル教材の活用 (一人1台端末等を活用し、端末の機能に応じた協働学習を実施)	初期消火や煙体験など、従来の体験訓練に加え、東京消防庁のVR防災体験車や防災館での各種体験	デジタル教材の活用 (一人1台端末等を活用し、端末の機能に応じた協働学習を実施)
時間	1時間		
	HRや日常の生活指導 防災に関する单元等	1時間	HRや日常の生活指導 防災に関する单元等

※事前学習、事後学習においては、発達段階や地域の特性に応じた学習形態を工夫

3 実践事例

地震・避難訓練、身体防護訓練事例（中学校 第1学年）

ねらい VR動画の活用や避難訓練の実施を通して、首都直下地震等災害時において、主体的に判断し、行動できる態度を養う。

	デジタル教材や訓練内容	実施状況
事前学習	○東京消防庁ホームページ、東京消防庁公式アプリ及びYouTube東京消防庁公式チャンネル防災教育VR「B-VR（ビーバー）」を*活用した防災教育	 <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを行い、共有する。 ・VR映像を視聴し、確認する。
体験訓練	○起震車による身体防護訓練 ○避難訓練（地震）1年生が考えた想定を2・3年生が実施	 <ul style="list-style-type: none"> ・起震車を活用し、揺れを体験することで、事前学習と体験を関連付け、より現実的なイメージをもたせる。
事後学習	○ワークシート及び東京消防庁リモート防災学習による復習	 <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、災害時の避難行動等について、確認をする。

※防災教育VR「B-VR（ビーバー）」

360度VR映像でリアルにシミュレーションされた首都直下地震を疑似体験できます。学校編や通学路編など、震災時、児童・生徒が遭遇する9つの場面があります。インターネット配信のため、動画のダウンロードは不要です。スマートフォンやタブレットで簡単に閲覧可能です。防災授業が簡単にできる「指導案」と「ワークシート」も用意されています。

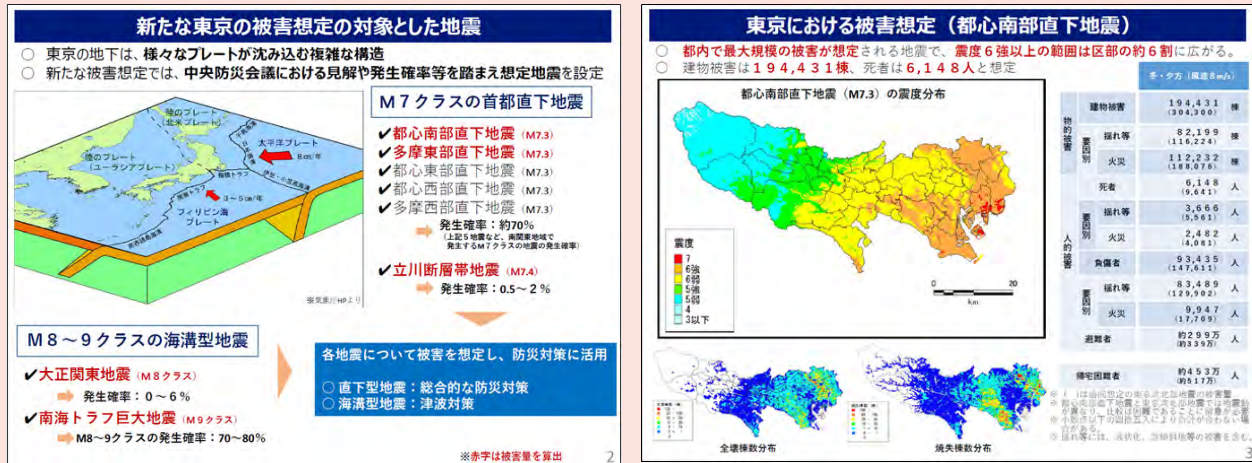
https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/bou_topic/learning/b-vr.html



トピック

東京都の新たな被害想定～首都直下地震等による東京の被害想定～ (令和4年5月25日東京都防災会議)

東京都は、東日本大震災を踏まえ策定した「首都直下地震等による東京の被害想定（平成24年公表）」及び「南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定（平成25年公表）」を10年ぶりに見直しました。



概要資料「東京都の新たな被害想定について 首都直下地震等による東京の被害想定」

トピック

関東大震災 100年

令和5年は、関東大震災発生から100年の節目の年となります。都では、こうした契機を捉え、「TOKYO強靱化プロジェクト」の一環として、共通のロゴ・タグラインも活用し、都民一人一人の自らを守る取組を促すとともに、自助・共助・公助に取り組む気運を醸成していきます。

都教育庁では、防災教育デジタル教材「防災ノート～災害と安全～」の活用に加え、令和5年6月に関東大震災100年を扱った児童・生徒向けの教材を都教育庁防災ポータルサイト内の特設ページに公開する予定です。各学校において、関東大震災100年を契機とした指導への活用をお願いします。



「関東大震災100年 共通ロゴ・タグライン」



防災教育デジタル教材「防災ノート～災害と安全～」